



たまだれ
No.73

たまだれ

Tamadale



特集

～50年ぶりに路線バス復活!!公共交通でのご参拝が実現～
小國神社・開運線 開通式

特別寄稿文

鈴木正彦記念土鈴館の開館にあたって／東北大学名誉教授 鈴木岩弓

ー神社を知ると日本が見えてくるー
神社検定受検者の声／元リビングカルチャーセンター長 神社検定1級保持者 千賀由美子

トピックス

令和8年 正月初詣・厄除大祭のご案内

岡部監督撮影の短編映画「Continuations」ロンドン・イタリアで受賞
「令和のお屋根替え」に密着したドキュメンタリー映画

遠江国一宮

小國神社のご由緒

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武將など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拝殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。

令和六年十月二十五日には、初の海外分祠シラチャ小國神社がタイ王国にご鎮座となりました。

小國神社と

徳川家康公の知られざる歴史・秘話も…
是非ご覧ください



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに



公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索



日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成したアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



ばんゆう ばんゆうめ
花柳磐優様・磐優愛様による花柳流日本舞踊の奉納（11月29日）

師走雑感

季節の巡りは早いもので、今季も多くの皆様に当社の紅葉をお楽しみいただきました。本年の色づきは非常に美しく、ご神域の至る所で感嘆の声が聞こえて参りました。自然が描く極上の色彩に目を奪われ、立ち止まる方が多く見受けられました。毎年の事ながら、神々が運ぶ季節の移ろいが見せる自然の深遠さに心を打たれます。県内報道各社も取材に訪れるなど、賑わいのご神域となりました。

さて、誌面でもご報告をさせていただいております。秋葉バスサービス㈱が森町商工会・森町観光協会・明神通り振興会・ことまち横丁・小國神社との共創事業として実施する路線バス「小國神社・開運線」が県の協力を得て実証運行ではありますが、約五十年ぶりに開通となりました。公共交通での参拝が可能となり、長年の懸案事項であった渋滞の緩和などにも期待が寄せられています。また、『ご参拝の皆様をおもてなしたい』との思いから『乗車から参道が始まる』をコンセプトに内装や外装に工夫を凝らしています。これから迎える新年から厄除大祭の約一か月間は、特別運行の実施となりますので、ご乗車の折に、お楽しみ頂きますれば幸いに存じます。

ところで、憲政史上初めての女性総理大臣が誕生し、高市内閣が発足されたことは、時代の流れに合致した大変面白いニュースであると存じます。高市政権に寄せる国民の期待は高い支持率にも表れているように思います。他方、総理の台湾有事に関する国会答弁に対し、駐大阪中国総領事のSNSにおおよそ近代国家の通商窓口の発言とは考えられない脅迫的な投稿をした問題について、覇権主義を隠すことのない中国共産党は、発言撤回を求め様々な報復を繰り返していますが、当局の焦り様は、一種異様に映ります。先の答弁は従来の政府見解に基づく当たり前の事を述べたに過ぎませんし、法的な解釈も間違いないものです。改めて、『台湾有事』や『尖閣問題』など我が国が置かれた現状を肝に据え、国民一丸となって困難を乗り越えることが大切です。

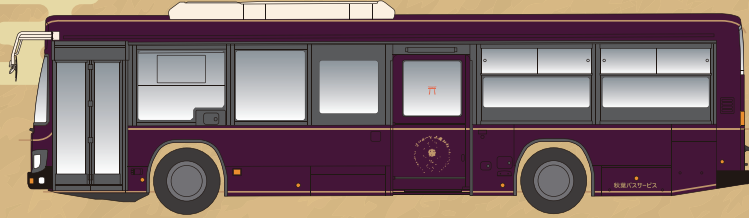
一方で、香港北部で起きた高層住宅の大規模火災について、総理がお見舞いのメッセージを出されたことは大きく報道されていないようでした。政治的な日中問題と多くの尊い命が失われた悲しい事件とをしっかりと線引きした日本人らしい品格ある行動であったと思います。

職員一同、丙午ひのうまの年を迎えるあたり、御皇室のご安泰と国の隆昌と世界の平和を祈る祭祀の厳修に努めて参りたく存じます。氏子崇敬者各位のご壮健をお祈り申し上げます。

令和七年十二月一日

50年ぶりに路線バス復活!!公共交通でのご参拝が実現

小國神社・開運線 開通式



アクセス・発車時刻等
詳細はこちらから



▲内装も当社の神事や四季をイメージした特別仕様です



▲特別招待で初乗りをした摩耶保育園の園児たち

十月三日(金)、ＪＲ袋井駅と当社を結ぶ「小國神社・開運線」の開通式典を拜殿で執り行いました。約五十年ぶりに復活したこのバス路線は、静岡鉄道グループで森町に本社を置く秋葉バスサービス(株)が実証運行としてスタートさせました。

当社は年間約八十五万人がご参拝に訪れます。その多くは、自動車や観光バスを利用されていることから、二次交通の在り方が課題となっていました。従前より当社におきましても、無料駐車場の増設などを行ってまいりましたが、参拝集中期間には周辺地域での渋滞が発生すること、課題の一つもありました。課題の解消を目指し、静岡県の支援を受け、秋葉バスサービス(株)、小國神社、明神通り振興会、ことまち横丁、森町商工会、森町観光協会が共創体制で立ち上げた路線が「小國神社・開運線」です。新たな参拝者の受け入れと、持続可能な文化観光・交通環境の改善を目指しています。

当日は拜殿にて「小國神社・開運線運行安全祈願祭」を斎行し、引き続き開通式を執り行いました。式典には、国土交通省中部運輸局静岡支局長小川賢二様、静岡県スポーツ・文化観光部理事川口茂則様、森町長太田康雄様、静岡鉄道(株)代表取締役社長川井敏行様をはじめ関係各位九十八名のご参列を賜り、共創を象徴するロゴマークも初披露され、新車両のお祓いを行い、運行の安全をお祈り申し上げます。



新たな交通手段で、バス旅参拝を

記念乗車証・記念御朱印



記念御朱印を受けられる「記念乗車証」を
車内にて配布しています

この乗車証を小國神社でご提示いただくと「小國神社・開運線」
記念御朱印をお受けいただけます

初穂料
500円

また、地元摩耶保育園の園児を招待し、「初乗り」としてＪＲ袋井駅までの試走を実施、袋井駅では出発式が行われました。当日は多くの報道各社も取材に訪れ、賑わいの一日となりました。



バスに乗った瞬間から
参道が始まる

「小國神社・開運線」は、単なる交通手段ではなく、「ご乗車の時から参道が始まる」をコンセプトに様々な工夫をしています。車両のデザインは小國神社のテーマカラーの一つで、落着きのある紫紺を基調とし、当社の御神紋の右三つ巴の紋があらわられています。

車内には、「打出の小槌」が奉安され、降車の際に触れることで大神様の



▲ 出発式で挨拶を述べる
秋葉バスサービス(株)
山田 光社長

▲ 出発式では園児から
運転手へ感謝の花束が
贈られました

▲ 無事出発式を終えた
後は初の乗客を乗せ、
神社へ出発しました

開通を記念し、鳥居をイメージした「特別記念乗車券」や、ご乗車参拝をされた方々に特別にお頒ちする「特別御朱印」をご用意いたしました。また、秋葉バスサービス(株)様独自の「バ朱印」や「バ朱印帳」も展開中で、ご参拝の思い出を一層彩ります。「小國神社・開運線」を多くのご参拝の皆様にご利用頂ければ幸いです。



開通を記念した特別企画も

ご加護をお受け頂けます。さらには、岡部聡監督による特別映像作品が上映されます。他にも、摩耶保育園園児の『手形もみじ』が車内を飾るなど、様々な見どころがあります。車窓から眺める静岡の風景にゆったりとした時間を過ごしながらか、参拝の旅路をお楽しみください。



▲ 当日は多数のメディアが
取材に来られました



▲ 初乗り前に清祓をし
走行中の安全をお祈りしました



▲ 挨拶を述べる宮司



▲ 秋葉バスサービス(株)
代表取締役社長
山田 光様



▲ 静岡県スポーツ・
文化観光部理事
川口茂則様



▲ 静岡鉄道(株)
代表取締役社長
川井敏行様



▲ 森町長
太田康雄様



▲ 国土交通省中部運輸局
静岡運輸支局長
小川賢二様

温かい我が家

年が改まり、心も改まる
日本中が「おめでとう」の
声につつまれる



暮らしに生きる「神道」

お正月

「明けましておめでとうございます」年が明けると日本中がこの言葉に包まれます。「おめでとう」と挨拶をされると、誰もが「おめでとう」と答えます。慣れ親しんだ光景ですが、「お正月」が私たちの暮らしにおいて特別なものであることがわかります。

神代より、日本人は稲作を中心とした生活を営んできました。春に蒔かれた籾は早苗となり、初夏の田植えを経て、秋には黄金色の稲穂をたわわに稔らせます。そして、冬になるとお米の一粒一粒が新しい生命を蓄え、巡り来る春を待ちます。私たちの祖先は、この時のながれを「年(とし)」と呼ぶようになりました。

お正月は、単に一年の始まりだけではなく、農事を始める前に、その年が豊作であるように神さまにお祈りする大切な神まつり(予祝)でした。

今日では、本来の意味が忘れられがちですが、お正月は『神さまと人とを結びつけ、家庭の和を育む大切な伝統行事』の一つです。

「お正月」は、神さまと人を結びつけ、家庭の和を育む。

お正月は歳神さまをお祀りする神事

わらべ歌の中に

「お正月さまがござった

何処までござった 神田までござった

何に乗ってござった 交譲木(ゆずりは)に乗って

ゆずりゆずりござった」

という歌があります。お正月の訪れを指折り数えて待つ子どもたちの姿が目につかびます。昔も今も変わらない心持ちではないでしょうか。

さて、ここで出てくる「お正月さま」は「歳神さま」のことで、年の始めに家を訪れ、家族に幸せを授ける神さまです。

この歳神さまは稲の魂であるとともにご先祖さまの御霊と一体のものであるとの信仰があります。

年末からお正月にかけて行なわれる様々な行事は、すべてこの歳神さまをおまつりするためのものなのです。

歳神さまをお迎えするために

年の暮れになると、どの家庭でも大掃除をして、お正月を迎える準備をおこないます。大掃除のときには、神だなや御霊舎を綺麗にし、お神札も新しくします。玄関に注連飾りや、門松を飾るのは、その場所が清浄であると示し、歳神さまを家にお迎えする目印となります。そして、鏡餅を飾って歳神さまにお供えをします。



近年では、核家族化や住環境の変化によりマンションや洋室などでお正月を迎える場合、「門松を飾る場所がない。床の間がない」という方も多いのではないのでしょうか。そのような場合は、市販の正月飾りを用いたり、タンスや飾り棚の上に鏡餅をお供えするとよいでしょう。何よりも大切なことは、清々しい気持ちで迎春準備を整え、真心で神さまをお迎えすることです。



日々の暮らしをご加護いただく 授与品紹介

**特別
奉製**

〔生活空間にそつと寄り添う、縁起物〕
丙午 小國神社干支土鈴
(授与料二、〇〇〇円)

小國神社の土鈴は、民俗学者折口信夫の高弟鈴木正彦先生が、多年研究の途次蒐集した一万数千点の土鈴を関係者各位のご縁ご協力により小國神社に奉納されたことに始まります。

子年の令和二年春、当社ではこれを機に一年の平安を祈願し『小國神社干支土鈴』の授与をはじめました。

来年『丙午』は、「丙」が火を意味すること、「午」は速く疾走することから、速く燃え盛るような行動力や情熱、自由活発さを象徴する、活き活きと伸び行く年といわれます。

お参りくださる方々の幸福とさらなる発展を願い、奉製させて戴きました。

生活空間に寄り添う、手のりサイズの可愛らしい縁起物です。



作り手

岡本政志…張り子作家で、干支土鈴の型を作成。暖かみと優しさ溢れる作品が特徴。
中野日和…三重県桑名市在住の画家、改組日展、光風会展など多数入選。
干支土鈴の総合デザインなど担当。

縁起物

絵馬表面

大鎚矢

初穂料:

5,000円

絵馬表面

厄除鈴

初穂料:

2,000円

台付き破魔矢

初穂料: **2,000円**

福熊手

大 初穂料: **4,000円**

小 初穂料: **2,000円**

永崎ひまる

絵馬師・和風画家・作家

平成二十七年度神道文化賞受賞



来年の干支絵馬のひとつは、当社の崇敬者で日本唯一の「絵馬師」として活躍する永崎ひまるさんによる、小國神社だけの特別な作品です。

ひまるさんは、NHK朝ごはんラボや週刊女性自身などの各方面より、絵馬を通じて日本の伝統文化の素晴らしさを発信し、本年、著書『ふくふく開運絵馬』はamazonや楽天ブックスでランキング一位を獲得しました。

秋場美緒

舞指導・縁起物作家



来年の小國神社の干支絵馬は、長年にわたり小國神社での祭祀舞や、社頭奉仕などのご奉仕をされ、作家として活動している秋場美緒さんによる、開運招福を祈る馬と紅葉のデザインです。力強く大地を蹴り、天へと飛翔しようとする馬の姿を描かれた、新年の「飛躍」を象徴するようなあたたかみのあるデザインです。

お守り



さいなん よけまもり おびまもり
災難除守(帯守)

初穂料: **2,000円**



交安錦守

初穂料: **各800円**



御守

初穂料: **各800円**

新しいお守りのご紹介

来年の丙午年は古来、飛躍の年とも言われます。小國神社では、来年より強運を授かるよう祈りを込めたお守りをお頒ちいたします。お守りをお受けいただき、大神様のご加護をお授かり下さい。



強運守

初穂料: **800円**



福德円満守

初穂料: **800円**



もみじ守

初穂料: **800円**



仕事守

初穂料: **1,000円**



丙午年厄除大祭

ひのえ
うま

令和八年(2026年)

一月二十日(火)～二月三日(火)

午前九時～午後四時

神様のご加護のもと
健康で充実した人生を願って

人生の節目の年にあたる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難を招きやすい年頃といわれ、誰もが健康で充実した人生を無事送りたいと願う気持ちは昔も今も変わりません。

小國神社では、一月二十日から二月三日まで厄除大祭を執り行います。厄年のお祓いをはじめ八方塞がり・黒星・諸災消除等諸々のご祈祷をご奉仕申し上げます。

厄年とは？

古くから日本に伝わる考え方で、身の回りの凶事・体調不良など、様々な難を招きやすい年とされます。男性は二十五歳・四十二歳・六十一歳、女性は十九歳・三十三歳・三十七歳・六十一歳が厄年とされ、その前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。

これらの年は神事で重要な役目を担う風習があったことから、神祭りでの「役(やく)」が厄年の語源であるとも言われ、神さまに失礼のないよう慎重、心身を清浄にするため、ご祈祷を受けたのが厄除のはじまりと考えられています。

厄年早見表<令和8年>

男性 厄年

前厄	本厄	後厄
2003年 平成15年生 <24歳>	2002年 平成14年生 <25歳>	2001年 平成13年生 <26歳>
1986年 昭和61年生 <41歳>	1985年 昭和60年生 <42歳>	1984年 昭和59年生 <43歳>
1967年 昭和42年生 <60歳>	1966年 昭和41年生 <61歳>	1965年 昭和40年生 <62歳>

女性 厄年

前厄	本厄	後厄
2009年 平成21年生 <18歳>	2008年 平成20年生 <19歳>	2007年 平成19年生 <20歳>
1995年 平成7年生 <32歳>	1994年 平成6年生 <33歳>	1993年 平成5年生 <34歳>
1991年 平成3年生 <36歳>	1990年 平成2年生 <37歳>	1989年 平成元年 昭和64年生 <38歳>
1967年 昭和42年生 <60歳>	1966年 昭和41年生 <61歳>	1965年 昭和40年生 <62歳>

黒星

六白金星生まれの方

昭和 6年 96歳
昭和15年 87歳
昭和24年 78歳
昭和33年 69歳
昭和42年 60歳
昭和51年 51歳
昭和60年 42歳
平成 6年 33歳
平成15年 24歳
平成24年 15歳

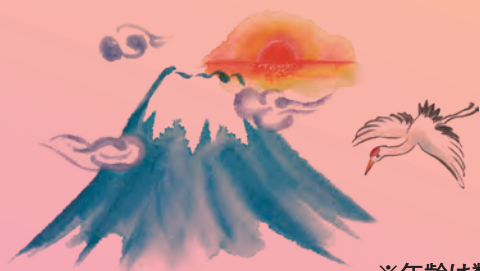
運気が低迷する
年まわりと
言われています。

八方塞がり

一白水星生まれの方

昭和11年 91歳
昭和20年 82歳
昭和29年 73歳
昭和38年 64歳
昭和47年 55歳
昭和56年 46歳
平成 2年 37歳
平成11年 28歳
平成20年 19歳
平成29年 10歳

万事に慎重を要する
年まわりと
言われています。



※年齢は数え年です。

◎初穂料について：ご祈祷の初穂料は、5,000円からご志納をお願いいたします。

たいなんしょうなん
大難は小難に

厄除のあれこれ

厄除祈願は年始〜節分が多い？

厄年は満年齢ではなく数え年を基準として考えるため、誕生日ではなく元日が区切りです。そのため、厄年の一年は元日から始まります。

厄除祈願は、立春までに行うのが習わしとされていますので、是非ともこの期間にお受けください。

当社では休みなく三六五日いつでも受付しています。誕生日に合わせたり、大安などお日柄の良い日に合わせたりと、自分の都合によってご祈祷のタイミングを決める方もいます。

もちろん、厄除祈願は厄年の人に限ったものではありません。厄年ではなくても、ご祈祷を受けることができます。

病気や怪我など何かと不運が続いている…と感じていれば、ご祈祷を受けるのが良いかもしれません。厄年に関係なく、一年安心して過ごせるよう、厄除祈願を毎年行う人もいます。受付では是非ともご相談ください。



令和八年版

小國神社神社暦



厄除・方位除け早見表から、毎日の吉凶・九星それぞれの運勢などを掲載しています。冠婚葬祭など生活に関わる運勢を判断し、運気の向上に役立ちます。授与所で五百円にて頒布していますので、ご活用ください。



▲修祓 厄除祈祷に先立ちお祓いをいたします

小難は無難に

黒星や八方塞がり、厄年と重なっている場合は？

黒星除け祈願と八方塞がり除け祈願、それぞれ厄年とは別の厄になりますので、当社ではどちらも受けていただくことを推奨しています。



厄除祈願の授与品のご案内



▲災難除守(初穂料：二〇〇〇円)



▲厄除肌守

特別授与の「厄除肌守」

厄除大祭期間中に厄除祈願をお受け頂くと、特別に「厄除大祭御神札」と共に「厄除肌守」をご祈祷後に授与いたします。

厄難消除・開運厄除「破魔弓矢」

「破魔弓矢」とは、ご祭神「大己貴命」が八十神(悪しき神)を宝器である生弓矢(いくゆみや)を用いて坂の果てに追いつせ、河の瀬に追い払い、初めてこの国を治めた慶事に基ぎます。

厄除大祭期間中のみの特別授与品として、厄難消除・開運厄除の願いを込め奉製いたしました。授与所にて授与しています。



▲厄難消除・開運厄除「破魔弓矢」
初穂料：2,000円

鈴木正彦記念土鈴館の開館にあたって

東北大学名誉教授 鈴木 岩弓

本年の八月下旬、小國神社境内に

「鈴木正彦記念土鈴館」が開館した。

木造平屋の八角形をしたこの建物の内部には、私の父親である鈴木正彦（一九二二（二〇二〇）が生前に蒐集していた土鈴、一三三〇個ほどの中から、常時九〇〇個ほどの土鈴が展示されており、今後、順次入れ替えられながらその全貌が紹介される予定と聞く。

父は岐阜県恵那郡中津川町駒場（現中津川市）に生まれたが、その父親である私の祖父が税務署勤務であったため、幼少時より転居をくり返し、岐阜県・三重県・愛知県を移動して育った。愛知県立津島中学校（現在の津島高校）



土鈴館に収蔵している
鈴木正彦先生ゆかりの土鈴

在学中に習った国語教師の熊谷武至

（後に東海学園女子短大教授）の影響

を受け、熊谷の恩師である国文学の泰斗折口信夫の教えを受けるべく國學院大学予科を経て、同大学の国文学科へと進んだ。しかし在学中の昭和十八年十二月十日には、この日開催された学徒壮行会に参加して明治神宮外苑競技場を行進し、第四期海軍兵科予備学生となつて大学を離れて戦争中を過ごし、終戦の日を静岡県の藤枝基地で海軍少尉として迎えた。戦後大学に復帰し、折口研究室の助手となつた後、昭和二十五年からは、七十歳を迎えた平成五年に退職するまで和洋女子大学に勤務し、定年後は和洋女子大学名誉教授として過ごした。

そんな父が土鈴に目覚めたのは、昭和三十三年五月十五日午後のこと。その経緯を息子の私を知ることができた裏には、父のもつ記録魔的な性格があつて、日々の出来事などが細かい字でギッシリと書き込まれた手帳が多数残されていたことによる。父はさらに、その記録を手がかりに自身の歩んで来た足跡を折りに触れてまとめていた。それによると、この日宇佐八幡の社務所で受けた鈴守りにスッカリ魅了されたことが記されている。その鈴は、白色無彩の素焼きのままで、中央鉢巻の上に「宇佐八幡」が陽刻された素朴で可憐な形をし、澄んだ高雅な音色がし

土鈴館を見学する鈴木先生と
森町長太田康雄様



たものであつたという。この時の土鈴との出会いをきっかけに、以後、父は土鈴蒐集の道を歩み始めたのである。

折口門下として、国文学・民俗学を専門とした父は、学会出張や調査旅行などで旅行に出る機会が非常に多かった。私が中学時代の記憶では、旅行から帰宅時の父は、身の回り品を入れたボストンバックの他に、中に土鈴の入った紙箱がぎっしりと詰め込まれた、透明のビニールで覆われた手提げ付きの大きな紙袋を持つてくるのが常であった。母親や子どもでもある私や妹への土産については、正直記憶に無いのだが。

入手した土鈴の増加と共に問題となるのが、その収蔵場所である。それが直接の理由であつたかどうかは不明だ



が、東京の郊外に購入した建売住宅は、増築・改築を経て、最終的には敷地の端から端まで繋がる屋根裏部屋が、土鈴置き場として定着した。昭和四十七年頃からは、父親が土鈴のコレクターであることを聞きつけた新聞・雑誌・TVの記者が取材に訪れるようになり、コレクションの一部を広げて土

鈴を振る父親の写真付きの記事が出る機会が増えてきた。そうした際、鈴の埃を払ったり、良い写真のアンクル確保のために部屋の模様替えをしなければならぬ母親が一番大変であった。

他方で、土鈴蒐集を契機に父の人間関係は多方面に広がっていった。その最初期の方は、父の土鈴蒐集の師ともなった栗井千種という女性である。私の子どもながらの記憶では、このお婆ちゃんは、当時流行っていた朝のTV番組『木島則夫モーニングショー』に土鈴蒐集家として出演された方で、これを見た母親が即座に放送局に電話して連絡先を入手したことで、父親が直接お会いする機会を得、交流が始まったようであった。お宅を訪問しての初対面の帰り際に貴重な土鈴をいくつか頂いた際、「同好の士に純粋な喜びを分かち合えるのが蒐集家の楽しみ」と言われた言葉が強く印象に残ったという。また栗井から紹介を受けて「全国郷土玩具友の会」に入会して知り合った村山東昌会長からは、蒐集家としての心得を伝授された他、戦前の土鈴を多数頂き、これが父のもつ戦前土鈴の大半を占めることになったという。そうした蒐集家相互の交流に加え、父親は、井上博秀はじめ全国各地の土鈴作家の方々と訪問して親交を深めていたが、これが父の土鈴人脈の特徴でもあったのであろう。そうした人々との関係は

▲開館セレモニーで挨拶を述べられる鈴木先生



拡大し、昭和五十六年に発足した「語鈴会」や昭和六十一年発足の「神戸土鈴の会」などの活動の中でさまざまに展開していったようである。

このたびは、こうした土鈴を要とした人々の関係が実を結び、小國神社境内に土鈴収蔵の記念館が姿を現す運びとなった。その背後には、打田宮司さまをはじめとする小國神社関係者はもちろん、故渡辺誠弥さま、中野日和さま、神戸土鈴の会の皆さまなどの多大なご尽力があったことは言うまでもない。法隆寺の夢殿と同じ八角形をし、その名前が冠された立派な施設は、土鈴蒐集家としての父親にとって、何物にも代えがたい大きな喜びとなっていることであらう。今は亡き父に賜ったご厚誼に篤く感謝申し上げますと共に、この記念館が、わが国の民俗文化の一つである土鈴に特化された展示の一大拠点として、今後ますます発展して行かれることを祈念する次第である。

〈略 歴〉

1951年東京生まれ。東北大学・同大学院で宗教学を学んだ後、鳥根大学教員を経て東北大学宗教学研究室に戻り、2017年定年退職。総長特命教授を務めた後2022年3月完全にリタイア。現在は東北大学名誉教授。専門は、宗教民俗学・死生学。

主な編著書に、『いま、この日本の家族一絆のゆくえー』、弘文堂、2010年、『変容する死の文化ー現代東アジアの葬送と墓制ー』、東大出版会、2014年、『現代日本の葬送と墓制 イエ亡き時代の死者のゆくえ』吉川弘文館、2018年などがある。



プロフィール

東北大学名誉教授

すずき いわゆみ
鈴木 岩弓



神社検定受検者の声を紹介

— 神社を知ると日本が見えてくる —

「縁がつかないだ神社検定

千賀由美子

六月下旬、緑が一層深まる季節に神社検定が行われました。試験を終え会場を出ると、目の前に広がる小國神社の神域。清々しい空気を吸い込むと、緊張が一気にほぐれていくのを感じました。何とも言えない充実感に包まれながら、このような経験ができたのは、四年前に音声SNS「クラブハウス」に登録したことがきっかけだったと思います。

当時、コロナ禍の影響で会社の業績はダウン。さまざまな人と会話ができるこのアプリに「仕事のヒントがあるかもしれない」と期待を抱いて参加していたのです。ある日、数あるトークルームの中に「神社のことを皆でまったり語ろう」というテーマを見つけ、何気なく加わってみることに。そこには、数千社もの神社に参拝した方、全国を旅しながら御朱印を集めている方、稲荷神社の狐に魅せられて巡っている方、さらには現役の神職の方々も数名いて、福岡在住の主催者を中心に、毎晩神社について語り合っていたのです。最初は、ただ興味深く聞いているだけ

でしたが、徐々に皆さんの知識や行動力に近づきたいと思うようになりしました。そんな折、グループ内で神社検定のことが話題になったのです。受けてみるという人たちに誘われて、私も参観を受験。試験の直前にはルームで対策講座もしていただき、無事合格できました。その達成感もさることながら、神社についての基本的な知識が身に付いたことで、参拝が益々楽しくなったのが嬉しい変化でした。

さらにその後、クラブハウスでの縁から会社の事業として「神職さんに案内してもらう神社参拝ツアー」を実施することができました。仕事につなげようという当初の目的はすっかり忘れていましたが、思いがけない形で願いが叶っていました。数回開催したツアーはいずれも大盛況で、参加者から



▲今回受検された千賀由美子さん

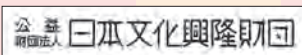
「また開催してほしい」という声も多々いただき、企画者として「もっと深く神社について学びたい」という気持ちが強まりました。そこで、昨年は神社検定式級、今年は壹級に挑戦し合格しました。年齢とともに硬くなった頭での勉強は決して楽ではありませんでしたが、応援してくれる仲間がいたことは何よりの励みになりました。

また、神社検定を通して、今まで知らなかった神道の歴史に触れることができました。多くの人が「日本のことを」を守り伝えてきてくれたことに感謝すると同時に、自分もその流れの中に生きている一人であることに気づかされました。これから先、神社を守っていくためには、それぞれの地域で、地元の人々が神社を大切にし、関わっていくことが何よりも大切だと感じています。私も微力ながら、そうした活動に携われたらと思っています。



▲小國神社研修室 受検会場の様子(6月29日)

●各リンクもぜひ御覧ください●



第14回は令和8年6月28日に実施!!

身近にあるのに意外と知らない
神道と日本を再認識できます。



縁起物作家・神社検定壹級保持者
秋場美緒さん

「日本のこころ」を守り伝えてきてくれたことに感謝すると同時に、自分もその流れの中に生きている一人であることに気づかされました。

神々とお祭り

私たちの祖先は、かみまつ神祭りの
なかから生き方を学び信仰の
礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史
をふまえ、豊かに暮らす知恵を
生活のなかに生かし、神々と
生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り
返し行なわれ、私たちはその中で
信仰や文化をかたちづくって
きました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、
神々に対する祖先のこころを
今に伝える大切なかたちです。



古代の森
小國神社 第23回 写真コンテスト
表彰式・展覧会開催のご報告

後援…静岡県・森町・森町観光協会・静岡新聞社・静岡放送・中日新聞東海本社

四季折々の神域を写す珠玉の作品

九月二十一日(日)、拝殿にて『第二十三回 古代の森小國神社 写真コンテスト』の表彰式を肅行いたしました。

平成十四年から続く当コンテストも本年で二十三回目を迎え、「境内に咲く草花・樹木など」・「祭事・催事」・「野鳥」の三部門に加え、次世代への取り組みとして設けた「学生の部」の全四部門に、三〇五点の作品をご応募いただきました。どの作品も、当社の四季折々の自然や厳肅な神事が生き生きと写し出された、素晴らしい作品ばかりです。

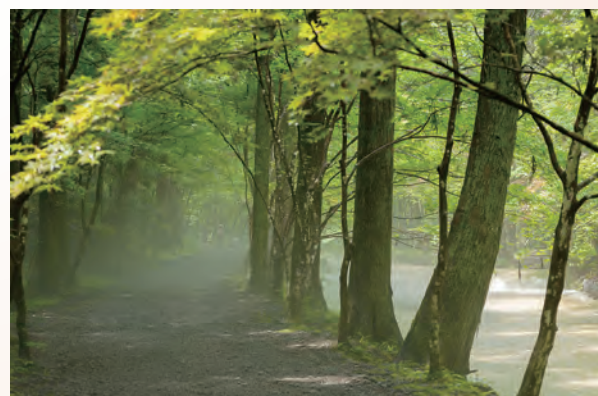
本年も甲乙つけ難い作品が並ぶ中、厳正なる審査の結果、掛川市在住の深井陽子様の作品が最優秀賞に選ばれました。深井様は「数ある作品の中から選んでいただき光栄の極みです。四季折々に見せてくれる豊かな自然の表情をカメラにおさめるために、また足を運びます。」と、次回への抱負を語られました。

また、同日より十月三日までの間、参拝者休憩所二階の研修室にて写真展を開催し、足を運んだ参拝者からも多くの好評をいただきました。来年のコンテストにも、皆様ぜひ奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。



受賞された皆様▲

▲最優秀賞を受賞した深井陽子様



▲最優秀賞「霧に包まれる青紅葉の宮川」／深井陽子

▲特別賞「憩いの宮川」／相羽 強



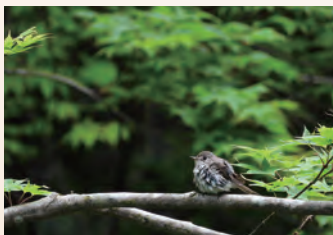
▲優秀賞「秋好日」／中沢力男



▲優秀賞
「赤翡翠雨乞鳥
(アカショウビン)」
／山内清孝



▲学生の部最優秀賞
「青葉に憩う
(エゾヒタキ)」
／小粥暁斗



▲優秀賞
「水面に映る
早乙女装束」
／岩本雅志



▲学生の部優秀賞
「道しるべ」
／大石悠貴



▲多くのご参拝の皆様にご覧いただき賑わいの展覧会でした

◆ ユシットスイーツジャーパークシラチャ 工事安全祈願祭の斎行

◆日泰友好の新たな礎を築く

八月一日(金)、タイ王国チョンブリ県シラチャに鎮座する当社の分社、シラチャ小国神社において、リゾートホテル「デュシットスイーツジャーパークシラチャ」の建設工事に先立ち、工事安全祈願祭を斎行いたしました。

祭典には、同施設を運営するサハ・グループ会長のブンヤシット・チョクワタナー様、ホテルを手掛ける東急株式会社取締役会長の野本弘文様、サハ東急コーポレーション取締役社長の須山真慈様をはじめ、日泰両国の関係者約五十人が参列いたしました。

このホテルが日泰両国の文化交流の拠点となり、多くの人々の安らぎの場として親しまれるとともに、シラチャ地域がますます発展していくことを心よりお祈り申し上げます。



▲多数の関係者参列のもと、異国の地で祭祀を執行いたしました



▲さまざまな作品が並び、世代を超えて楽しめる作品展となりました

「氏子十人展」を開催

◆氏子の皆様による真心こもった作品展

八月九日(土)より八月十七日(日)までの九日間、小国神社振興会主催による「氏子十人展」が開催となりました。

本展は、氏子地域(一宮地区・園田地区・橘地区)に住む十名の方々にご協力をいただき、絵画・書道・写真・工芸・手芸など様々なジャンルの創作物や趣味の品々を展示したものです。

本展は、小国神社振興会による初の試みとして、参拝者の皆様に楽しんでいただくと同時に、氏子と参拝者が交流する場を創出することを目標に開催しました。会場では、出展者と参拝者が作品について語り合う和やかな光景が見られ、多くのご参拝の皆様にお楽しみいただきました。

(株) 鈴木長十商店の新社長就任 奉告祭の斎行

◆明治創業の老舗茶問屋 五代目就任

九月八日(月)、(株)鈴木長十商店新社長就任奉告祭を斎行し、鈴木洋太郎様が新たに代表取締役社長に就任となりました。

鈴木長十商店は、明治初年に森の茶の製茶問屋として創業し、百五十年以上にわたり茶業を営んできました。平成二十年十月には「小国ことまち横丁」を新設、その後に本店を移して、ご参拝の皆様の憩いの場として賑わいを見せています。

鈴木新社長は、平成三十年年度には静岡県茶業青年団茶審査技術競技大会で優勝の栄に浴され、商品企画においては、アニメとのコラボレーションを推進されるなど、新たなお茶の需要を創出されています。

代々受け継がれた伝統を守りながら、茶業の発展に邁進されますことを心よりお祈り申し上げます。



▲鈴木洋太郎新社長と宮司

(株) 静岡木工 内定式・入社式 合同式典の開催

◆新たな門出を小国神社から

九月三十日(火)、(株)静岡木工様の内定式ならびに入社式が開催されました。

当日は、権宮司による神社の由緒・日本の伝統文化についての講話を行い、引き続き、拝殿での正式参拝を行いました。厳肅な雰囲気の中、皆様の真摯な姿が印象的でした。

(株)静岡木工様は神棚・神具を通して、日本の伝統を次の世代に繋ぎ、平和に貢献するという経営理念のもと、様々な取り組みをされています。

新入社員の皆様もこの理念に深く共感し入社を希望されたものと存じます。社会人としてまた、神道を志す「神道人」としてさらに活躍してくれることを願ってやみません。

皆様のご活躍と(株)静岡木工様の益々のご隆昌を心よりお祈り申し上げます。



▲内定者・新入社員と社員の皆様

抜穂祭の斎行

◆お米をいただくことは

日本の文化を心に宿すことでした。当日は森町議会議長中根信一郎様、奉耕者の内山博文様をはじめ二十二名の方々にご参列いただき、白丁装束を身に着けた内山様が神饌田にて抜穂神事をご奉仕されました。

古来、稲作は日本の国造りの礎であり、お米は日本人の主食であると同時に、文化の基盤そのものです。当社においても、豊作を祈り収穫に感謝する稲作儀礼は、重要な神事とされています。

このたび収穫した稲穂は、十一月二十三日の新嘗祭で大神様へとお供えし、ご皇室の弥栄と国家国民の安寧をお祈り申し上げます。

長年に亘る内山様のご奉仕に深く感謝申し上げます。



▲洗い清められた稲穂は、大神様へ御初穂として献納されました



▲ご奉納いただいた色とりどりの美しい鯉

錦鯉のご奉納

◆放生の池、「事待池」

十月九日(木)、明神通り沿いに事務所を構える神宏クリーンサービス様、また十月十五日(水)には浜松市中央区の(株)VALBO様より、それぞれ錦鯉をご奉納いただきました。ご奉納いただいた鯉は境内の事待池に放たれ、元氣よく泳いでいました。

当社は古来より「願い事が意のままに叶う神社」として広く知られ、願いが成就した際に池へ鯉を奉納する神恩感謝の習わしがあります。この「願い事が叶うまで待つ池」という言い伝えから、「ことまち池」と呼ばれ、この信仰は今もなお受け継がれています。

この度の神宏クリーンサービス様、(株)VALBO様のご厚志に深く感謝を申し上げますとともに、貴社の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

福神像頒布式の斎行

◆福徳円満・開運厄除の神霊を押印

十月十八日(土)、神札頒布世話人の皆さまにご参列いただき、福神像頒布式を執り行いました。

頒布される福神像のお神札は、福の神として知られる恵比寿様と大国様が刷られたもので、詳細な年代は不明ですが記録を遡ると明治期にはすでに氏子区域全域に頒布され始めたことが伺えます。この貴重なお神札は本頒布式を経て、各地区の世話人により、一斉に頒布が開始されます。

福徳円満、開運厄除のご加護をお受けいただき、平穏な日々をお過ごしください。



▲福神像神札に押印する宮司



▲福神像神札



▲天野監督とランナーの皆様

第二十六回しずおか市町対抗駅伝

◆心をひとつに、絆をつなぐ

十一月十六日(日)、拝殿にて「第二十六回しずおか市町対抗駅伝」に出場する森町チームの必勝安全祈願祭を斎行いたしました。

当日は天野元文監督をはじめ、コーチ、選手の皆様にご参列され、来る十二月六日の大会での健闘と道中の安全を大神様にご祈念されました。

森町チームは過去に町の部で優勝経験を持つ強豪です。昨年は六位入賞を果たしており、本大会での更なる飛躍が期待されています。祭典後は、森町文化会館で結団式・壮行会も実施され、神社よりお守りを授与いたしました。

森町の誇りを胸にタスキを繋ぐ選手の皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。



▲本社を含めた五柱の神々をお祀りします

疫神齋の齋行

◆三百有余年の伝統を継ぎ、

災厄除と国家安寧を祈る

十一月十九日(水)、疫神齋を齋行いたしました。

疫神齋は、「延宝の記録」において十一月十九日の条に齋行の記録が記されていることから、少なくとも三百年以上前から続く祭祀で、ご本殿の御扉を開け、拝殿中門に神籬を設けるといふ、極めて特殊な形式が特徴として挙げられます。須佐之男神、大物主神、事代主神、行疫神二柱をお招きし、本殿の大己貴命と共に五柱の神々をお祀りします。

古来より「黄昏時」は、禍々しい災厄が蔓延り、魔物や災いに遭遇しやすい時間帯として恐れられ、民俗学の大家柳田國男先生もこの時間について見解を述べています。

祭典後には特別に奉製した「疫神齋神札」を世話人を通して氏子の皆様へ授与いたしました。

タイ・シラチャ小国神社へ アート作品の奉納

◆野田真一様新作エブラシアート

十一月二十四日(月)、エブラシアートイストの野田真一様より、昨年に引き続きエブラシアートの新作「大己貴命図」をご奉納いただき、大前にて奉納奉告祭を齋行いたしました。

野田様は、当社でも個展を開催するなど、縁のあるアーティストの一人で、世界的なギターメーカーFENDER社とのコラボレーションを行うなどその実力は折り紙つきで、ロックバンドのBUCK-TICKのギターや元X JAPANのHIDEモデルのギターにアートを施しています。

本作品は、ご祭神大己貴命が現代的な解釈で描かれ、命の凛々さと優しさを独特の画風で表現しています。作品は海を越えたタイの小国神社分社「シラチャ小国神社」に展示予定です。茲に改めて、野田様のご厚志に深く感謝申し上げます。



野田真一様 (中央) ▲

森町立宮園小学校二年生による 課外学習活動

◆地域の歴史と自然に親しむ課外学習

十一月二十六日(水)、森町立宮園小学校二年生四十名が、課外学習活動でご参拝に來られました。

拝殿前にて参拝の作法を学んだ後、神職より当社の歴史や神道文化について解説を行いました。

児童らは神職の話に熱心に耳を傾け、質問の時間には多くの手が元気に挙がり、神職が一つ一つ答えました。

その後、児童らはご神域を散策し、自然の息吹を感じながら仲間と共に笑顔でお弁当を囲み、和やかなひとときを過ごしました。

子供は国の宝です。郷土の歴史を知ることが、地域を愛し、国を愛する心を育む第一歩になります。

今回の学習が、子供たちの心に深く残り、今後の学校生活をより豊かにする糧となることを願ってやみません。



▲熱心に耳を傾ける児童ら

タイ王国シラチャ小国神社 例祭の齋行

◆日泰の安寧と友好を祈り

十二月五日(金)現地時間午前十時、タイ王国チョンブリ県に鎮座するシラチャ小国神社において、鎮座奉告祭後初の例祭として、サハ・グループ会長のブンヤシット・チョクワタナー様、小国神社崇敬奉賛会常任理事の倉島正三様をはじめ五十名を超えるご参列のもと厳肅に齋行いたしました。

祭典では大神様への感謝とシラチャ地域の安寧と益々のご隆昌をお祈りいたしました。祭典後は、日本からのメディア取材などもあり賑やかな一日となりました。



▲祝詞奏上
日泰のさらなる文化交流も併せてお祈りいたしました



▲野田先生のエブラシアートも
ご奉納となりました

新嘗祭の斎行

神代からの約束を守りつづける祭

十一月二十三日(日)、秋の神事の中でも最も重要な新嘗祭を、境内が紅葉で彩られる中、厳重な斎戒のもと斎行いたしました。

日本の『いのち』と『いのろ』の源流『新嘗祭』とは

新嘗祭の「新」は新穀を、「嘗」は奉ることを意味します。その歴史は大変古く、我が国最古の正史である『日本書紀』にも記述が見られるほど神代の昔から、我が国においてとても大切にされてきたお祭りです。現在ではGHQの占領政策により、「勤労感謝の日」として国民の祝日となつていますが、本来は「新嘗祭」という祭日として、国民それぞれが意義深く過ごし感謝を捧げる重要な祭日です。



▲ 氏子よりご奉納いただいた農産物がご神前にお供えされました

宮中における新嘗祭



▲ 清風雅楽会様による 伶人奉仕

宮中においても、神武天皇建国以来、歴代天皇によって特に大切にされてきたのが新嘗祭です。天皇陛下がその年に収穫された稲などの食物をお供えし、天照大御神(天皇陛下のご先祖様)をはじめ、八百万の神々に捧げ、自らも共に召し上がり、ご神恩に感謝されます。こうして五穀豊穣に感謝を捧げられると共に、国家と国民の安寧を祈られます。宮中での新嘗祭には、内閣総理大臣、農林水産大臣、衆参両院の議長、最高裁判所長官などが国民の代表として参列しています。神さまと食事を共にする儀式(神人共食)を通して、ご加護をいただくのが新嘗祭の本質ともいえます。

当社においても、春に豊かな実りを祈る年始の田遊祭から始まり・祈年祭・御田植祭を経て、秋に収穫を感謝する抜穂祭に続き、新嘗祭をもって、一年間の稲作に関する神事が締めくくられます。この稲作に関わる祭祀は最も重要な営みとして、連綿と受け継がれています。

お米は神さまからの授かりもの

私たち日本人にとってお米は、単なる食べ物ではありません。我が国の正史「日本書紀」には、天照大御神が孫である瓊瓊杵尊に稲穂を授け、「この稲を育て、豊かな国を作りなさい」と仰せになったと記されています(斎庭の稲穂の神勅)。

このように、悠久の昔から、お米は神々の恵みの最たる象徴とされ、稲作は日本の社会や文化の基盤を形作り、人々は田植えや収穫などの営みを通じて自然に向き合い、神々に生かされていることへ感謝する心を育んできました。

神道の儀式の多くが、稲作や農耕と深く結びついています。神様へのお供え物である神饌の中でも、お米は最も尊いものとされています。

また、神棚にお米をお供えすることは、神々への感謝の心を表し、神様との結びつきを守るための大切な営みの一つです。



▲ 宮司祝詞奏上

厳粛な祭儀と実りへの感謝

祭典では宮司以下祭員が奉仕し、静岡県議会議員伊藤和子様、同議員伊藤謙一様、森町議会議員長中根信一郎様を始め一〇一名のご参列のもと、祭儀を執り行いました。

ご神前には、篤農家が丹精込めて育てられた新米や野菜などの農産物が供えられ、皇室の弥栄と国家の安泰、地域の益々の繁栄をお祈りいたしました。また、拝殿前では農産物感謝会や即売会なども催され、多くのご参拝の皆様で賑わいました。

近年、食料問題・危機について各方面より話題に上がります。我が国において食の根幹をなす大切な祭りは『新嘗祭』です。氏子崇敬者各位には、神様の恵みに感謝し、稲作の伝統と文化に思いを致しつつ、私たちの『生命』に関わるこの大きな問題にも真摯に向き合っていただければ幸いに存じます。ご参列いただきました皆様に厚く御礼申し上げますと共に、大神様のご加護をいただきますよう、心よりお祈り申し上げます。

あ たかまのはら きこしめ ゆにわ いなほ も
吾が高天原に所御す斎庭の稲穂を以って





静岡県議会議員 ▲
伊藤和子様



静岡県議会議員 ▲
伊藤謙一様



森町議会議員 ▲
中根信一郎様



謝辞を述べる宮司 ▲



▲祭員退下

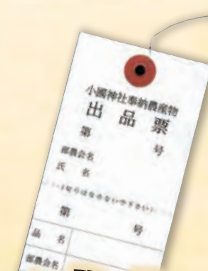
令和七年十一月二十三日、新嘗

祭斎行に引き続き、奉納農産物感謝会・即売会の開催となりました。

本年も酷暑が続き、厳しい環境となりましたが、全二〇三点もの見事な奉納農産物が並びました。

即売会には、高品質・低価格の農産物を買いたい求める多くの方で賑わいました。

ここに、感謝会で受賞された方々を申し上げますとともに、厚く御礼を申し上げます。



第六十九回奉納農産物

感謝会開催

亦、吾が児に御せまつるべし。
(斎庭の稲穂の神勅)

●振興会賞

米穀類の部 中川上 本多 利吉
根菜類の部 宮代東 大場 祐一
葉菜類の部 宮代東 松尾 貞子
果物類の部 米倉 平田 秀幸
その他の部 米倉 平田 一利

●特等賞

米穀類の部 草ヶ谷 小澤 良吉
根菜類の部 片瀬 村松 国夫
葉菜類の部 円田上 鈴木 伸明
果物類の部 牛飼 堀内喜久江

●特別賞

四十三点出品

片瀬 村松 国夫



令和七年

篤志奉納者へ感謝状贈呈

新嘗祭に併せ、去年十一月より本年十月までに、大前にご奉納された皆さまへの感謝状贈呈式を行いました。

本年は、自然釉窯焼き『めで鯛』をご奉納いただいた吉筋恵治様をはじめとする二名の方に感謝状を贈呈いたしました。

ここに、ご奉納品名とご芳名を掲載し、改めて御礼申し上げます。

●自然釉窯焼き『めで鯛』 吉筋恵治様
●ベンチ三脚 正光建設(株)代表取締役社長 山本欣宏様



感謝状贈呈 正光建設(株)様 ▲



感謝状贈呈 吉筋恵治様 ▲



岡部監督撮影の短編映画「Continuations」ロンドン・イタリアで受賞

「令和のお屋根替え」に密着したドキュメンタリー映画

当社のお屋根替えを記録した、岡部聡監督製作のドキュメンタリー短編映画「Continuations」が、欧州の権威ある二つの映画祭で相次いで受賞となりました。

令和七年十月二十六日、イギリス・ロンドンで開催された「ロンドンブリーズ映画祭」において、国際短編ドキュメンタリー部門で銀賞を受賞されました。当映画祭は今回で十回目の開催で、世界五十二か国より七百作以上の応募がある規模の映画祭です。ロンドン中心部、大英博物館近くの映画館での上映で、審査員より「日本の美意識と自然がいかに関存しているか、屋根の修復が祈りと繋がっている」との高い評価を得たことです。

これに先立ち令和七年九月には、イタリア・ロヴェレートの「RAM映画祭」で「伝統と文化」賞を受賞されており、二か月間での二度の受賞となります。同作品は現在九つの国際映画祭でオフィシャルセレクションされ、計四つの受賞を得ています。

本作は、二年間にわたる当社のお屋根替えの過程を記録し、ユネスコ無形文化遺産に登録された檜皮葺の伝統技法と、日本人の自然観を世界に発信する貴重な作品として、国際的に高く認識されています。檜皮葺という日本古来の伝統技術が国際的な舞台で評価される機会となり、その「用と美」を兼ね備えた芸術性と文化的意義が広く認められた証と言えます。

なお、同作品は岡部監督のYouTubeチャンネルでもご視聴いただけますので、ぜひご覧ください。



岡部監督公式HP
「さびん倉庫」



小國神社公式Youtube
「令和のお屋根替え
～「祈り」「技」「美」」

▶ London Breeze Film Festival
授賞式での岡部監督
(Photo by Andrew Gulland)



▶ RAM film festival授賞式での
岡部監督（中央）



おか べ さとる
岡部 聡
1976(昭和51)年11月17日
静岡県浜松市生まれ
映画監督、映像ディレクター



太田茶店の紹介

気軽に飲める森のお茶と
心とひととき



明神通りで、大きな赤い急須がひときわ目を引くのが「太田茶店」です。約二十年前にこの地へ移転して以来、参拝者の憩いの場として親しまれています。

同店が大切にするのは、食事に合う「普段使いのお茶」です。深蒸しの甘みと浅蒸しの香りを絶妙にブレンドした一杯は、県や森町の品評会で優勝するほどの実力を持ちながら、手頃な価格で提供されています。また、カフェやランチの併設や、お持ちの水筒などにお茶を淹れる「テイクアウト茶」など、急須を持たない世代や一服したい参拝者が気軽に立ち寄れる工夫も凝らされています。

「地域の茶畑を絶やしてはいけない」という強い信念のもと、耕作放棄地の再生にも尽力される太田会長を始め、太田茶店の皆さまは美しい茶畑の風景を守りながら、森町の茶文化を未来へと繋いでいます。



道の駅のような店構えと
赤い急須が目印です

新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える 「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。

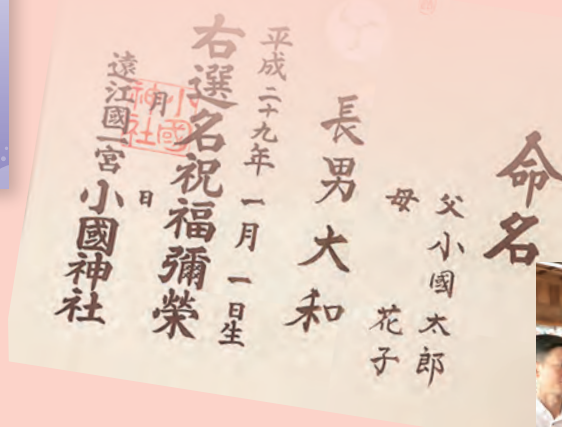
お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料 一〇、〇〇〇円也

命名

令和七年八月一日
令和七年十一月三十日

大場 夏斗	袋井市	佐藤 風華	森町	金本 侑菜	掛川市
山本 蒼斗	掛川市	三輪 柚貴	袋井市	小澤 世奈	焼津市
戸倉雅玖斗	浜松市	小出 結月	菊川市	大根 瑞生	袋井市
阿諏訪由奈	掛川市	本田 蓮都	菊川市	大山 縁	磐田市
半田 彼鷺	袋井市	船木 琉維	森町	加藤 謙真	森町



お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

小國神社 選名・命名奉告

検索

当社で命名奉告をされた皆様には
5月5日の端午祭へご案内いたします▶

神社を知れば日本がわかる “まつりの国、日本”



イラスト:小國神社ものがたり
作:たたら なおき

神饌(しんせん)

神饌(しんせん)とは、神様にお供えする食事の総称で、「御食(みけ)」とも呼ばれます。日本の神祭りは、神様の降臨を願い、心を込めておもてなしをすることに大きな特徴があります。そのため、神前には古くから、その時代や土地で手に入る最も良いものが供えられてきました。明治時代に祭式が定められ、神饌の形式も整えられましたが、今なお各神社に伝わる伝統的な供物(特殊神饌)を捧げているところも少なくありません。

祭典においては、神饌をお供えする儀式を「献饌(けんせん)」、お下げする儀式を「撤饌(てっせん)」

と呼びます。神饌の基本は、主食である米、米から作られる酒や餅、そして塩と水です。これらに加えて、海の幸や山の幸である魚介類、野菜、果物、菓子などを供え、日々の感謝とともに、国家の安泰や人々の幸福といった公の祈りを捧げます。

祭典の後には、お供えした神饌を下げて参加者全員でいただく「直会(なおらい)」が執り行われます。これは、神様と同じものを食べることで結びつきを強め、その御神威をいただくという「神人共食(しんじんきょうしょく)」の考えに基づいています。直会は、祭典を締めくくる重要な行事の一つです。

これからの 行事

4月



田遊神事 6番 苗草踏み



手新始祭



1月11日午前8時より斎行いたします。

古くから伝わる特殊神事の一つで、大工・職人の皆さまがご奉仕されます。古式に倣った所作が古の技を伝えます。



歳

旦

祭

1月1日午前2時より斎行いたします。

新年を祝いご皇室の弥栄と国の益々の発展、氏子崇敬者と地域社会の平和と繁栄を祈るお祭りです。



令和8年1月18日(日)午前9時より

どんど焼き祭

どんど焼きは、お正月に飾った注連縄や門松、古いお神札やお守りを焚き上げ、各家庭でお正月にお迎えした歳神様（ご先祖様の御霊）をお送りする大切な神事です。

神聖な神事の妨げとなる不要物（ぬいぐるみ・人形・おもちゃなど）はお持ち込みにならないようお願いいたします。

3月

やよい
弥生

- | | | |
|-----|-------------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 1日 | 一宮祖霊社月次祭 | (午前11時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 17日 | 真田城趾慰霊祭(予定) | (午前11時30分) |
| 17日 | 鉦執社例祭 | (午後 1時30分) |
| 18日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 20日 | 春季皇霊祭遙拝式 | (午前10時) |

4月

うづき
卯月

〈例祭日程〉

- | | | |
|-----|---------------|------------|
| 16日 | 垢籬祭 | (午前11時) |
| 17日 | 猷詠祭 | (午前10時) |
| 17日 | 前日祭 | (午前11時) |
| 18日 | 例祭 | (午前10時) |
| 18日 | 古式十二段舞楽奉奏(重文) | (午後 2時) |
| 19日 | 氏子入奉告祭 | (午前 9時) |
| 19日 | 古式十二段舞楽奉奏(重文) | (午前10時50分) |
| 19日 | 神幸祭 | (午後 2時) |



古式十二段舞楽 9番「陵王」

小國神社の 祭典・

1月～

令和7年12月31日(水)午後3時より 師走大祓式・除夜祭

日常生活の中で知らぬうちに犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。古来より、清浄を大切にしてきた日本人の慣わしの一つです。

引き続き、無事の一年を感謝し、素晴らしい年を迎えることができるようにお祈りする除夜祭を執り行います。両祭典とも、どなたでもご参列ができます。

一年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新年をお迎え下さい。

小國神社 おおはらえのことば

検索



スペシャルムービー～古の祝詞 大祓詞への誘い～

1月

むつき
睦月

- | | | |
|-----|------------|------------|
| 1日 | 初祈祷祭 | (午前 0時) |
| 1日 | 歳旦祭 | (午前 2時) |
| 1日 | 一宮祖霊社歳旦祭 | (午前 8時) |
| 2日 | 日供始祭 | (午前 8時) |
| 3日 | 元始祭・追儺祭 | (午前 8時) |
| 3日 | 田遊祭・田遊神事 | (午後 1時) |
| 6日 | 本宮山奥磐戸神社例祭 | (午前10時) |
| 7日 | 昭和天皇祭遙拝式 | (午前 8時) |
| 7日 | 神明宮参拝 | (午前 9時) |
| 11日 | 手鉾始祭 | (午前 8時) |
| 15日 | 寒の丑日水汲祭 | (午前 2時) |
| 17日 | 八王子社例祭 | (午前 8時30分) |
| 17日 | 御弓始祭 | (午前 9時30分) |
| 18日 | どんど焼祭 | (午前 9時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 20日 | ～2月3日 厄除大祭 | (特別祈祷期間) |

2月

きさらぎ
如月

- | | | |
|-----|-----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 1日 | 一宮祖霊社月次祭 | (午前11時) |
| 3日 | 節分祭世話人祈祷祭 | (午前10時) |
| 3日 | 節分祭 | (午後 2時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 11日 | 紀元祭 | (午前10時30分) |
| 15日 | 宗像社・白山社例祭 | (午前10時) |
| 15日 | 飯王子社 | (午前10時30分) |
| 15日 | 塩井神社例祭 | (午前11時) |
| 18日 | 祈年祭 | (午前10時) |
| 19日 | 初甲子祭 | (午前10時) |
| 23日 | 天長祭 | (午前10時) |



御弓始祭

1月17日午前9時30分より斎行いたします。

当社では、『疫神鎮送』の神事として、災い除けの側面も持ち合わせています。的に向かい放たれた矢は、災難除けの縁起物として持ち帰る方が大勢います。



節分祭・豆撒き神事

2月3日午後2時より斎行いたします。

豆撒き神事をはじめとする奉仕者参加型の神事で、多くのご参拝の皆様で賑わいます。元は宮中の年中行事として行なわれ、現在では、日本の国民的な伝統神事として定着しています。



小國神社公式・神棚の里ECサイトのご案内

ご家庭に神棚・神具を
感謝と祈りの暮らしをお届けします

「小國神社公式 神棚の里ECサイト」では、伝統的な神棚から現代の住空間に調和するモダンなデザインまで、幅広いラインナップで取り揃えています。和室・洋室を問わずどんな空間にも自然に馴染む洗練されたデザインが特徴で、新築や開店、人生の節目にふさわしい神棚セットや盛り塩、しめ縄、縁起物なども豊富にご用意しています。

また、古くからの神棚を丁寧にお祓いし、焼納するサービスも承っております。遠方にお住まいの方でもご自宅から簡単にご利用いただけますので、詳しくは左記のQRコードからご確認ください。

「ご家庭に「感謝」と「祈り」
の場を整える機会に、ぜひご活用ください。」



小國神社公式
神棚の里
ECサイト



公式HP・SNSのご紹介

小國神社
公式Webサイト
(Domestic)



小國神社
公式Webサイト
(Overseas)



小國神社
公式Instagram



◇ 辞令交付 ◇

権禰宜 林 圭祐
願いにより

職を免ずる

(令和七年

八月三十一日付)

編集後記

玉垂七十三号をお届けします。

本年の紅葉期間は、例年以上に多くのご参拝者様をお迎えさせて頂き、昼夜を通じて境内が賑やかな雰囲気になりました。奉納行事の数も多く、雅楽や尺八、箏曲に加え、本年は初めて猿回しと花柳流日本舞踊のご奉仕をいただき、日本の伝統芸能の幅広さを実感していただけたのではないのでしょうか。猿回しは、子どもたちの大きな歓声が響き渡り、境内の空気がパツと華やいだのが印象的でした。

猿回し芸を奉納した猿芸工房様は、様々な事情で居場所を失いかけていた猿を引き取り、芸を通じて人と共に生きる道を拓いていると伺いました。古来、猿回しは「災いが去る」縁起の良い芸として親しまれてきました。こうした芸能のご奉納は、皆様への感謝の形のひとつです。ご参拝の皆様におかれましては、当社での四季折々の行事などを通じ、伝統文化に親しみつつ心安らぐひとときをお過ごしいただければ幸いです。



イラスト...
小國神社明神通り
縁結び公式キャラクター
「こうち君(こうち様)」